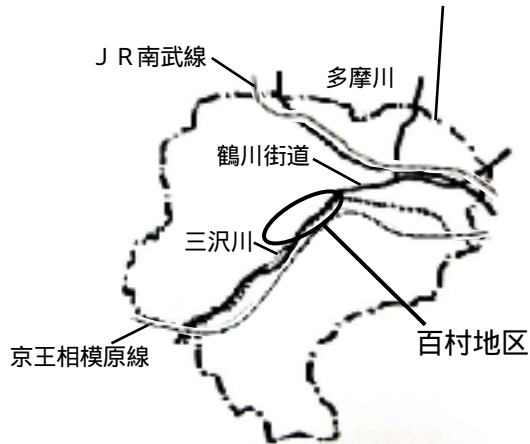


稲城市 で中止

区画整理事業（稲城市^{もむら}百村）の中止決定 「まちづくりは住民との協力ですすめなければいけない」に羽村市は学ぶべき

稲城市は、93年に決定をした「稲城市^{もむら}百村土地区画整理事業」を中止することを決め、今年の9月議会で中止のための全ての手続きを終えました。地権者の過半数が反対を表明し、事業の長期化が避けられないとの判断からです。

今回は、10月2日に共産党羽村市議団・世論がおこなった稲城市への行政視察の内容をお伝えいたします。



百村地区 貴重な自然が残る住宅地

百村地区は、京王相模原線・稲城駅からほど近く、今も貴重な自然が残る住宅地です。川崎市へ抜ける鶴川街道沿いに位置し、渋滞解消や、近くを流れる三沢川の整備の必要性などから、昭和60年代に地元から区画整理を求める声があがったそうです。

かつては多摩ニュータウンの事業地域でしたが、93年に稲城市が12.3%の同地区を区画整理方式で整備をすすめる計画を決定し、94年に都が事業認可。05年までに事業を実施するという計画でした。

01年換地設計に、多くの住民から反対の声

ところが、実際にどのような街づくりをするかの換地設計が示された01年、約170人の地権者の中から、40件以上の反対意見書が提出されます。平均すると土地の28.6%が減らされるなど、住民負担の大きさが明らかになったからです。換地設計は変更されましたが、住民の納得は得られませんでした。

推進の立場の住民からは「はやく進めるべき」との声があげられましたが、稲城市は04年にアンケートを実施。過半数の住民から中止・見直しを求める回答が寄せられました。

「住民の応援がないと事業はできない」と中止を決断。市民参加型まちづくりへ。

稲城市は「住民の応援がないと事業はできない」「このままでは事業の長期化が避けられない」と区画整理事業の変更を決断。

区画整理にかわる街づくりをどうすすめるのか、住民の声を聞こうと、「出前井戸端会議」をおこなうことに。字ごとに職員が出向いて住民との対話を積み重ねる中で、今のまちなみを生かした「地区計画」によるまちづくりマスタープランを作成しました。



細い路地が残り、ほっとする歩いて楽しい百村地区のまちなみ

これまでの事業の成果を生かし、今のまちなみを生かしたまちづくりへ

すでに区画整理事業には調査・設計費など約4億2600万円が投入されていました。（市分は2億3千万円）

しかし、測定のデータ、土地の評価、ボーリング調査などは今後のまちづくりにも生かせると判断。国や都も、新たなまちづくりに生かすのであれば、補助金を返金しなくてよいということになりました。

